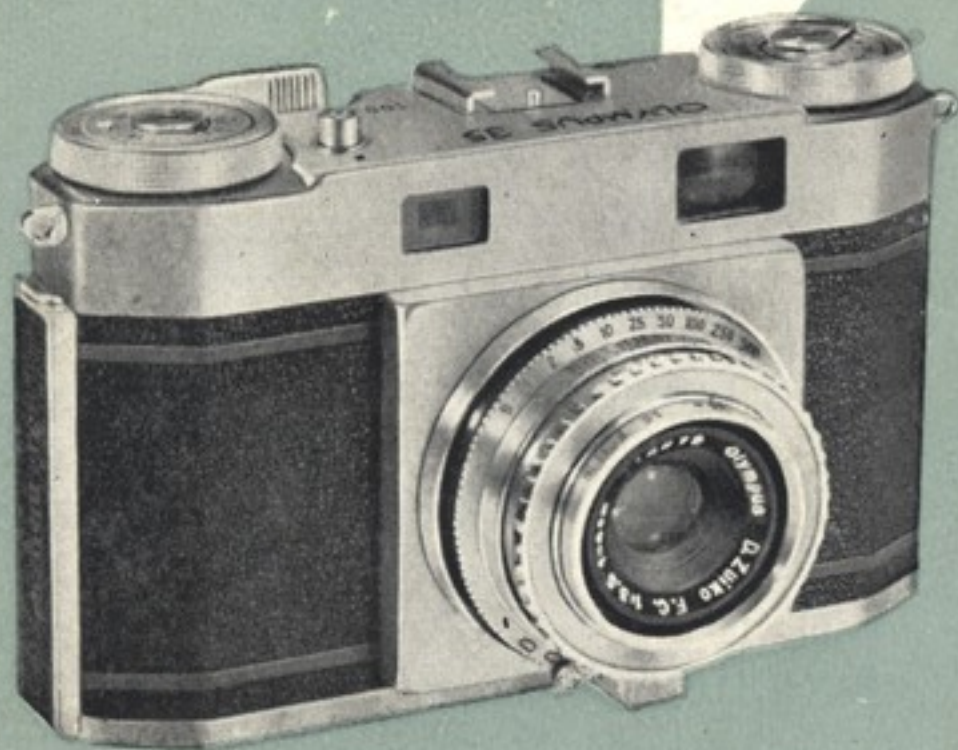


INSTRUCTIONS



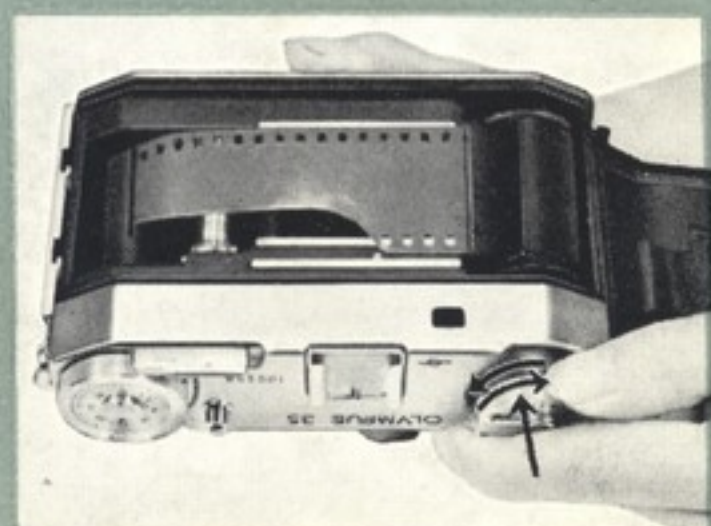
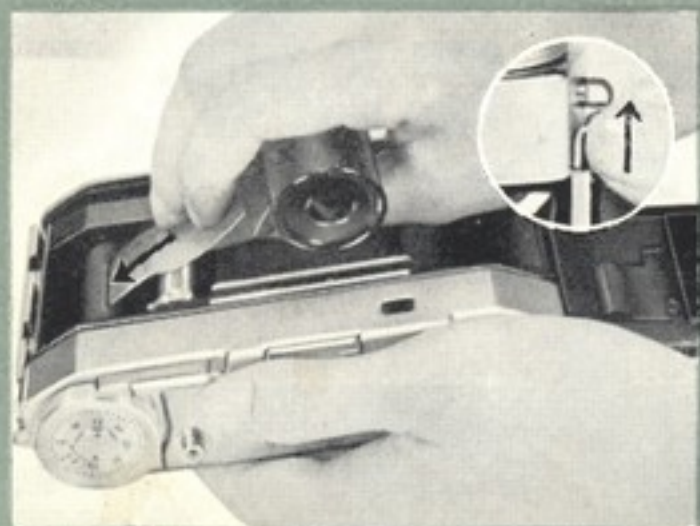
OLYMPUS 35K

フィルムの装填

- (1) オリンパス35Kには、35ミリパトローネ入りフィルム、又はオリンパスマガジンP型に装填された35ミリフィルムを使用します。
- (2) フィルムをカメラに装填する前準備として一度空写しをして下さい。巻き戻しボタン⑬を元に戻すためです。それから裏蓋開閉鍵⑧を引き出し、裏蓋を開きます。
- (3) フィルムを写真のように右手に持ち、カメラを左手で持って、巻き取りスプール⑳の溝に写真の矢の方向にフィルムを十分に差し込みます。スプールは空転しますから指先でまわして、溝を差し込み易い位置になおしてお

くと楽に差し込めます。

- (4) 巻き戻しノブ⑭を引き出しパトローネ又はマガジンをマガジン室に収めます。
- (5) 次に巻き戻しノブ⑭を押し込みます。つかえたら、ノブを少しまわすとカチリと入ります。このままではフィルムがたるんでいるでしょう。巻き戻しクランク⑯を起し、パトローネ又はマガジンを押え乍ら、クランクを矢の方向にまわしてタルミを取り、なお注意してフィルムを緊張させ乍ら少し戻しますと、スプロケットの歯の一つにフィルムのパーフォレーションの孔が掛ります。
- (6) 歯の一つに孔がかかった状態で、裏蓋を閉じ、鍵板を元通り押し込みます。ここで、念



の為め捲き戻しクランク⑮を更に矢印の方向にまわして見ます。フィルムはキュッとしまって、まわりません。そこでフィルム捲上レバー⑩を捲上げて空写しを一枚します。

このとき捲き戻しノブが逆回転することを確認します。これはフィルムが正しくおくられている証拠です。

- (7) 撮影駒数計⑨のつまみを必ず矢の方向にまわしてSの赤点を外周の黒点に合わせます。これであと一度空写しをしますと次にはNo. 1の撮影になります。
- (8) カメラに装填したフィルムの感度を示すのがフィルムインディケーター⑭です。ダイヤルのつまみを廻して装填したフィルムのAS

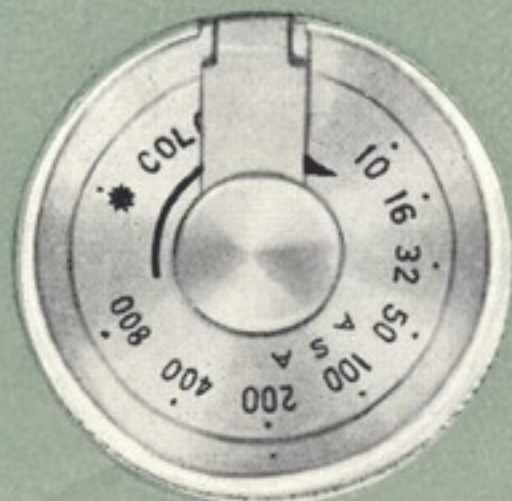
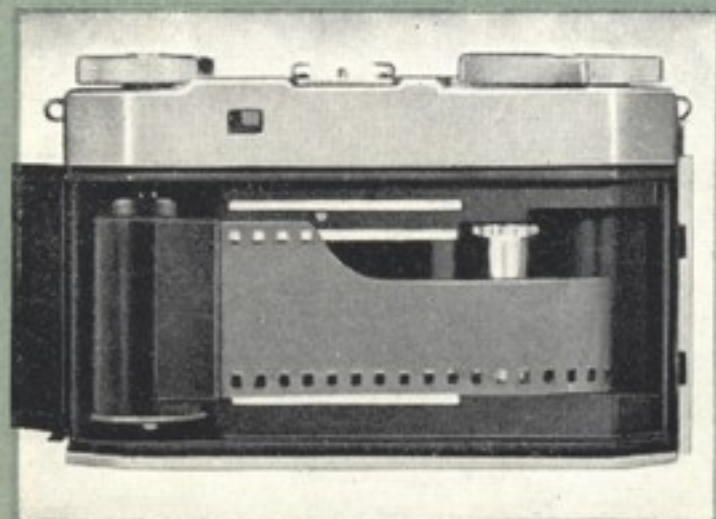
A感度指数を内側の赤点に合わせます。

捲き戻しクランク⑮を倒します。

これでフィルムの装填は完了です。

フィルム圧着板

フィルム圧着板⑳は硝子製でオリンパスの特許です。レンズの性能が如何によくとも、ボディやフィルムの面の精度が出ていなくてはともピントの良い写真はとれません。その為種々の実験の結果、圧着板の平面性を確実に保つ特殊なガラスを採用し、表面はフィルムの密着を防ぎ、フィルムに摺り疵をつけない様に特殊な加工がされています。



シャッター調節

シャッター速度は調節環②を廻して必要な速度の目盛を中央の黒点に合わせます。

このシャッターは最も新しいコパル MXV で速度段階は、B, 1, $\frac{1}{2}$, $\frac{1}{5}$, $\frac{1}{10}$, $\frac{1}{50}$, $\frac{1}{100}$, $\frac{1}{250}$, $\frac{1}{500}$ 秒で、クリックストップになっていますから、不用意に調節環がまわる心配はありません。

(a) パルプ露出——シャッター調節環の B は所謂パルプ露出のことで B を黒点に合わせてリリースボタンを押せば、シャッターは開き、放すと閉じます。

これは 1 秒以上の露出に使います。

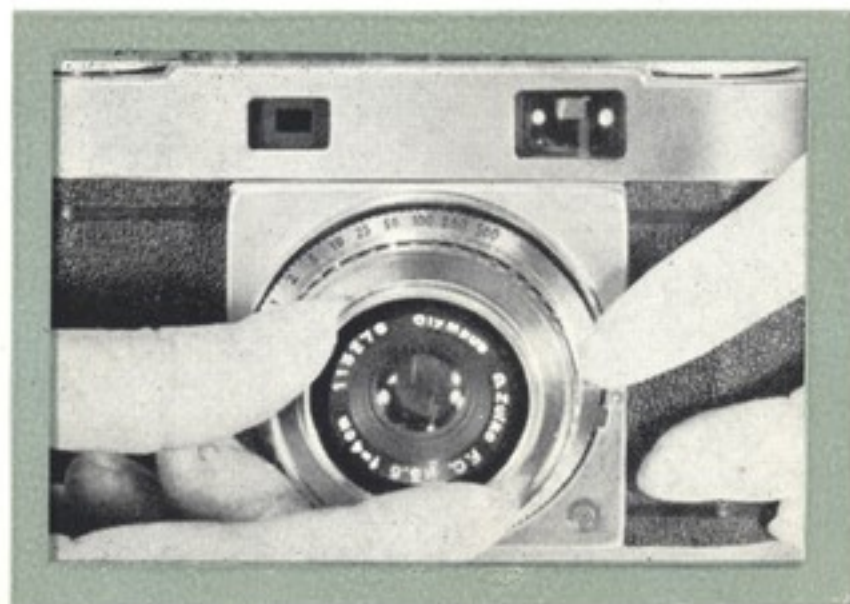
(b) B 以外の数字は瞬間露出の秒数の逆数を示しています。即ち 1 は 1 秒、2 は $\frac{1}{2}$ 秒です。

絞り調節

絞り調節環⑤は鏡筒の先端に取りつけられています。絞りの調節は写真のように焦点調節環④をおさえて廻転させ目盛は基部の黒点に合わせます。この調節環は焦点調節環と共に廻転しますので、絞り目盛は見易いように対称的に 2 ケ処刻まれています。どちらを合わせても同じです。絞り段階は 3.5, 4, 5.6, 8, 11, 16 でクリックストップになっていますので希望の絞りの数字でカチリと止ります。

絞り目盛は F 値で、数字が大きい程レンズの有効口径は小さくなり、レンズを通過する光量は少なくなります。絞り目盛は一段数字が増す毎に光量が半分となり、F4 を基準とした光量の比は次の通りです。

目盛 F	3.5	4	5.6	8	11	16
光量比	1.3	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$



焦点調節

焦点調節は、ヘリコイドによる距離計連動機構により行います。

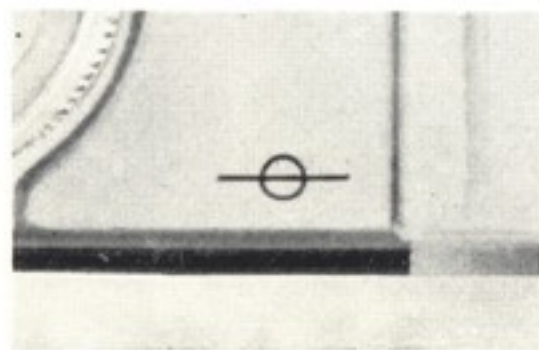
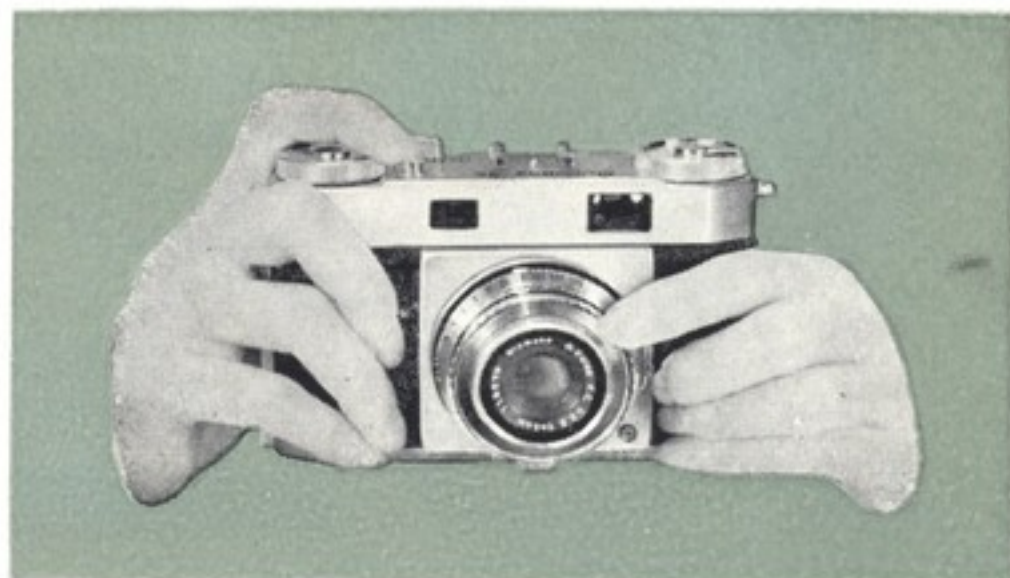
距離計は、ファインダー覗き窓②と共通で、焦点を合わせると同時に構図の決定が出来る所謂二重像合致式一眼連動距離計です。

調節の方法は、ファインダー覗き窓②を覗き乍ら、焦点調節環④（写真参照）を廻転しますと、ファインダー中央の明るい部分に見える二重像の一方が動きます。この二重像の合致した時がピントの合った時です。二重像が合致した時の指標の指示する調節環の目盛を読めば、その時の被写体迄の距離が分ります。

距離目盛はフット目盛で、2.5, 3, 3.5, 4, 5, 6, 8, 12, 24, ∞に目盛ってあります。

固定焦点

焦点調節環の12と24の間にある赤点は固定焦点指標です。スナップ撮影の場合に御利用下さい。即ち、赤点を黒点に合わせて絞りを8に絞りますと、8呎から無限遠までの被写体はすべてピントが合うことになりますから、撮影の度毎に焦点を合わせる手間がなく非常に便利です。



距離測定基準線

カメラ上部にある⊙印は被写体とカメラの距離を測る場合の基点を示したものです。近接撮影で正確に距離を測る必要のある時はこの基準線からお測り下さい。



フィルム捲上レバーを止まるまで廻転しますと、フィルムが1駒分捲上られると同時にシャッターもチャージされる所謂セルフコッキング方式です。このレバーは一度に止るまで捲上ても、又小刻みに捲上てもかまいません。又レバーは必ずしも元の位置に戻さなくても差しつかえありません。リリースボタンはレバーの廻転が止るまで捲上げ、フィルム捲上げ表示窓⑦に赤印が現れないと押せません。二重露出防止装置の働きです。

フィルム捲上表示窓（赤窓）

レバーを廻転し、フィルムが捲上げられ、シャッターがチャージされますと、リリースボタンの前にある窓に赤印が現れシャッターを切ると消えます。

この装置によってフィルムが捲上られているかいないか一見してわかりますので、シャッターチャンスを逃す心配がありません。

御 注 意

- (1) フィルム捲上げはなるべく撮影直前になさる習慣をおつけになることをおすすめします。フィルム捲上と同時にシャッターもチャージされる機構ですからフィルムを捲上げてシャッターをチャージしたまま長時間放置することはシャッターの性能を何時迄も保つためによくありませんし、うっかりリリースボタンを押して無用の露出をする心配があります。
- (2) シャッターをチャージした後でシャッター調節環を動かす事はさしつかえありませんが、 $1/10$ ～ $1/25$ 秒、 $1/250$ ～ $1/500$ 秒、の間では機構上ギヤのかけ外しがありひつかかりますので一度逆にまわしてから戻して下さい。

フラッシュ同調撮影

フラッシュバルブにはM, Fの二つのクラスがあります。Mバルブは、電流が通じてから20ミリセカンド後に光量が最大になります。Fバルブは大体10ミリセカンド内外で光量が最大になります。

この他に、クセノンガスの真空放電を利用したストロボライトがありますが、これは電流を通すと同時に瞬間発光をします。

以上の各フラッシュをすべて有効に活用するためにはシャッターで電流を通ずる時刻を夫々に応じて正確に調整しなければなりません。これの出来るシャッターをMXフルシンクロといいます。オリンパス35KのコパルMXVは、そのフルシンクロのシャッターです。そこで、

Mバルブを使う場合はシャッターのMXレバーをMの方に置いて下さい。又ストロボライトをお使いの場合はレバーをXの方に置いて下さい。そうしますと何れの場合でも、シャッターのすべての速度目盛で、完全にフラッシュ撮影が出来ます。

それ以外でレバーがMの方にあるときにはストロボや、Fバルブでは撮影出来ません。

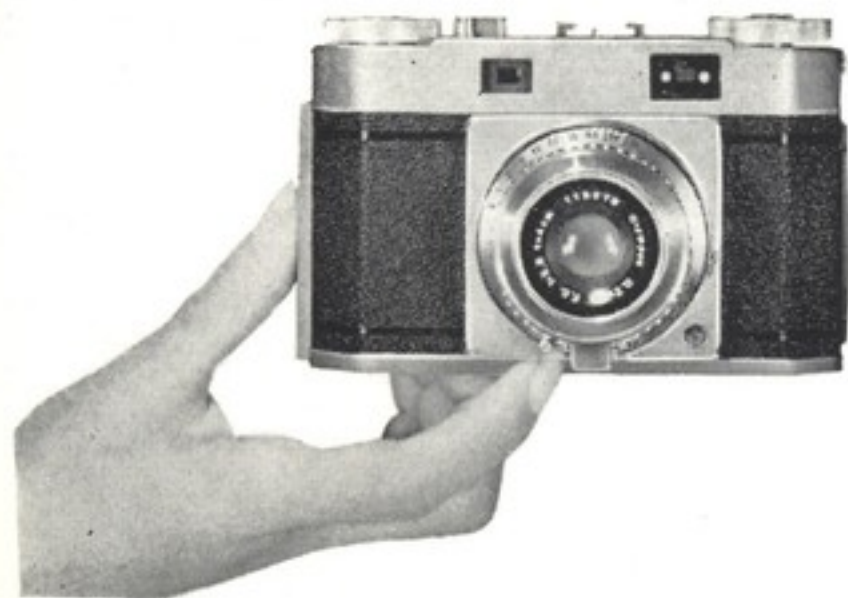
又、レバーがXにあるときには、

Mバルブは 1秒 ~ $\frac{1}{25}$ 秒

Fバルブは 1秒 ~ $\frac{1}{50}$ 秒

で撮影が出来、それ以外の高速では撮影が出来ません。

MXレバーをXの方に置いた場合には、リリースボタンを押すとまずシャッターが開き始め、丁度全開した瞬間に電流が通ります。レバーをMに置いた場合は、リリースボタンを押すと、時限歯車が作動し、まず電流が通り、次いでシャッターが開き始め、電流が通ってから20ミリセカンド後に、シャッターが全開するようになっています。



フィルムの巻戻し

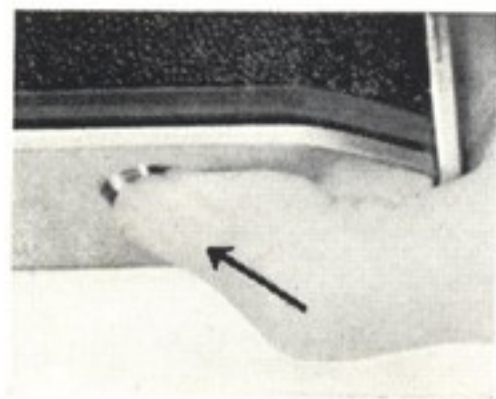
- ① フィルムを全部撮し終えますと、フィルムは動かなくなり巻上レバーは非常に重くなります。規定の(20又は36)番号を終えてレバーが重くなったら撮影をやめて巻き戻しにかかります。
- ② 35ミリフィルムは、裸で巻取りスプールに巻かれていますから、もとのパトローネかマガジン内に巻き戻す前に裏蓋をあけてはいけません。
- ③ フィルムの巻戻しにはまず、カメラの底部にある巻戻しボタン⑱を押し次に巻戻しノブのクランク⑳を起し、クランクを矢印の方向に廻転します。



る巻戻しボタン⑱を押し次に巻戻しノブのクランク⑳を起し、クランクを矢印の方向に廻転します。フィルムを巻戻している間は巻戻しクランクが重く感じますが、フィルムが巻取られ、巻取りスプールからフィルムの先端が外れる瞬間急に軽くなります。この時がフィルムが全部巻戻された時です。巻戻しボタンは一度押すと押されたままになります。巻上レバーをまわすと元に戻ります。巻戻しが終わったらカメラの裏蓋を開き巻戻しノブを引出してパトローネかマガジンを取り出します。

御 注 意

太陽光線その他直射光線の下でフィルムを装填したり、取り出したりすることはやめましょう。





ソフトケース

オリンパス35K型には吊り環がとりつけられていますので速写ケースをお使いにならぬ場合は、写真の様なソフトケーを御利用になると軽快な撮影を楽しめます。色は5色（ブラウン、ローズ、グリーン、ブラック、イエロー）あります。

ケーブルリリース

三脚を御使用のとき、又は接写装置を御使用のときにはケーブルリリースを併用して下さい。ケーブルリリースはリリースボタンのねじに先端をねじ込みます。

OLYMPUS ACCESSORY

撮影に必要な附属品は別に発売しております



フィルター

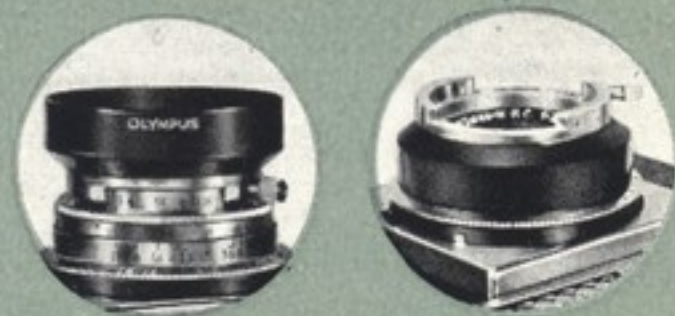
フィルターは、30.5mmねじ込み型専用フィルターセットをおすすめ致します。セット内容はUV、O1、Y2、3枚1組となっております。

マガジンP型

マガジンとパトローネ両者の特徴を採り入れたオリンパス35用マガジンP型はK型の他オリンパスで発売しております全ての35ミリカメラに使用出来、暗室装填用フィルムの御使用に便利です。

接写装置

書籍類、書画の複写に、草花、小動物等の接写に充分御活用願える装置で簡単な操作で御使用でき又35K型の他現在迄オリンパスより発売されております全ての35ミリカメラにも使用する事が出来るものです。



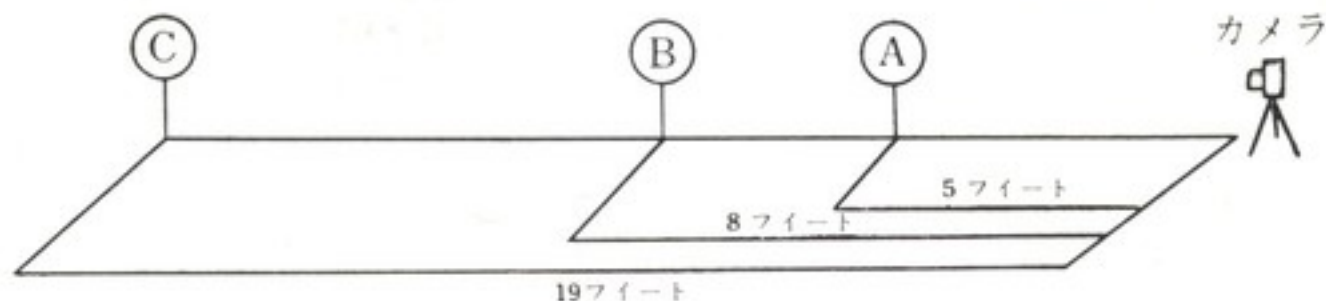
フード

35K型の専用フードは32mmかぶせ型で絞り目盛がフード装着の場合でも読める様に両側を加工してあります。

被写界深度



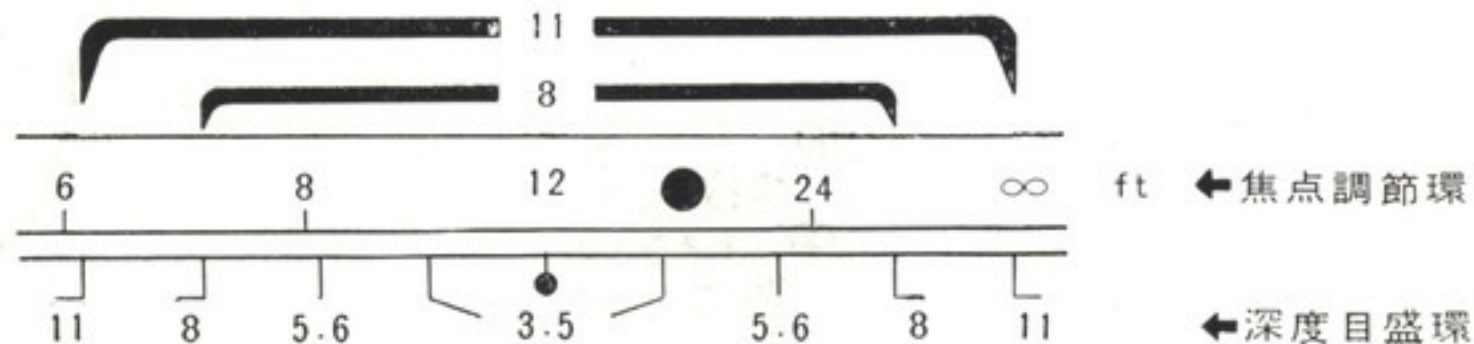
ある被写体に対してピントを合わせた場合その被写体は最も鮮鋭に写り、その前後の被写体はボケて写ります。下図を御覧下さい。



例えば距離の異なる処にABCの3人がいたとします。カメラのピントをAに合わせればB・Cはボケ、Bに合わせればA・Cはボケる筈です。又Cに合わせればA・Bはボケます。併しこれは理論上の事で、実際にはボケにも程度がありますから、実用上ボケているとは見られないボケを許しますと、この3人のうち、Bにピントを合わせた時A・Cもボケないという範囲が考えられます。

この範囲を被写界深度と呼んでおります。このとき、BからAまでを前方の深度、BからCまでを後方の深度といいます。この被写界深度は、レンズの焦点距離や、絞りによってかわりますので、この範囲が広いことを深度が深いといい、狭いことを深度が浅いと呼んでいます。

一般にレンズの焦点距離が短かければ短かい程、又絞れば絞る程被写界深度は深くなります。この被写界深度を一目で分る様にしたのが深度目盛環③です。これを分り易くしたのが次の図です。



深度目盛環③の中央にある黒点はシャッター調節環と焦点調節環を合わせる基点です。この黒点の両側に同じ数字が並んでいます。これは絞りの数字です。そして上から見て左側の数字は、その数字にレンズを絞ったときの前方の深度の極限を右側は後方の深度の極限を示しています。

今距離が12フィートとなった時、絞りを11に絞った場合をみてみましょう。左の11は6フィートと7フィートの中間を、右の11は無限遠 ∞ を指しています。この場合の被写界深度は6.5フィートから無限遠 ∞ までということになります。つまり必要な絞りの左右の目盛がはさむ焦点調節環の目盛の範囲が被写界深度ということになる訳です。この深度目盛環をお使いになれば被写体の前後どの位の範囲がはっきり写るかも分りますし、又距離の異なる二つの被写体を両方ともはっきり写したい場合にどこにピントを合わせて、どれだけ絞ればよいかも分ります。すなわち、二つの被写体の距離が、深度目盛環の左右の同じ数字で挟まれるように焦点調節環を調節して、その挟んだ数字まで絞ればよいわけです。このことを頭に入れ固定焦点を中央指標にあわせ絞りを8とした場合の深度を読んでご覧になると、大体の場合（9フィートから無限遠迄）の撮影（8フィート以内の近距離を除いた）がこの固定焦点で解決される事がおわかりになるでしょう。

オリンパス 35K 焦点深度表 (Dズイコー F 3.5 f=40 mm)

(許容するボケの直径を $\frac{d}{1200}$ とした場合 d=画面の対角線長 ライカ判の場合 43.3mm)

距離目盛 絞り	焦 点 を 合 せ た 距 離 (ft)								
	3	3.5	4	5	6	8	12	24	∞
3.5	2.83より 3.19まで	3.27より 3.77まで	3.69より 4.37まで	4.52より 5.61まで	5.30より 6.92まで	6.79より 9.77まで	9.42より 16.6まで	15.4より 55.6まで	41.9より ∞ まで
4	2.81 3.22	3.24 3.82	3.65 4.43	4.46 5.71	5.22 7.07	6.64 10.1	9.14 17.6	14.6 68.6	36.6 ∞
5.6	2.74 3.32	3.14 3.96	3.53 4.63	4.27 6.06	4.96 7.62	6.23 11.3	8.35 21.7	12.7 275	26.2 ∞
8	2.64 3.48	3.01 4.20	3.36 4.96	4.02 6.67	4.63 8.64	5.69 13.7	7.40 33.4	10.6 ∞	18.4 ∞
11	2.53 3.71	2.87 4.54	3.18 5.47	3.75 7.64	4.27 10.4	5.15 18.9	6.48 104	8.76 ∞	13.5 ∞
16	2.37 4.17	2.65 5.28	2.91 6.60	3.38 10.2	3.78 15.8	4.44 52.1	5.39 ∞	6.84 ∞	9.36 ∞

御 注 意

- ① レリーズボタンは極めて静かに押して下さい。シャッターの開いた瞬間にカメラが動くとピントのよい写真は出来ません。
- ② 撮影時以外はレンズに常にキャップを被せておいて下さい。但し撮影する時にキャップ取外しをお忘れなく。
- ③ オリンパス35K型は二重露出が出来ません。
- ④ オリンパス35Kのシャッターはピハインドレンズシャッターですから裏蓋を開いた際シャッター羽根が露出していますからこれにふれぬ様にして下さい。
- ⑤ カメラはホコリと湿気を嫌います。
- ⑥ フィルムを装填したまま半年も放っておくと結果は思わしくありません。撮影後一週間位の間で現像されるのが理想的です。
- ⑦ レンズに指先をふれぬこと。
レンズについたほこりは清潔な軟い羽根の先ではじきとばして下さい。誤って指紋をつけた時は、直ちによく洗ったのりのついていない清潔な軟い木綿布で拭いて下さい。放置するととれなくなります。レンズ拭のよごれたものや麻や絹布は却って禁物です。
- ⑧ レンズに糸状のカビが発生したら信用ある光学工場
で掃除して貰って下さい。
- ⑨ カメラを海水に落した時は、すぐに清水で洗って、
即刻修理にお出し下さい。ぐずぐずしていると腐蝕の
為元も子もなくなります。



品質保証

オリンパスカメラは、総てお買上後3ケ年の品質保証をいたします。

何卒オリンパスカメラを生涯の愛機として御使用の程お願い申上ます。

尚保証期間の経過後、若しくは保証適用外の故障についても実費で迅速確実に修理致します。

オリンパス光学工業株式会社

本社 東京都渋谷区幡ヶ谷原町845
電話 東京(37)代表 5151~6
営業所 東京都中央区銀座東1の2
電話 サービス(56)1854 業務・宣伝(56)1855